

一、南無阿彌陀佛
 二、南無觀世音菩薩
 三、南無地藏菩薩
 四、南無彌勒菩薩
 五、南無文殊菩薩
 六、南無普賢菩薩
 七、南無大勢至菩薩
 八、南無虚空藏菩薩
 九、南無持世菩薩
 十、南無寶髻菩薩
 十一、南無蓮華藏菩薩
 十二、南無摩訶羅菩薩
 十三、南無摩訶伽藍菩薩
 十四、南無摩訶庵闍梨菩薩
 十五、南無摩訶師子菩薩
 十六、南無摩訶師子吼菩薩
 十七、南無摩訶師子王菩薩
 十八、南無摩訶師子吼王菩薩
 十九、南無摩訶師子王吼菩薩
 二十、南無摩訶師子王吼王菩薩

一、南無阿彌陀佛
 二、南無觀世音菩薩
 三、南無地藏菩薩
 四、南無彌勒菩薩
 五、南無文殊菩薩
 六、南無普賢菩薩
 七、南無大勢至菩薩
 八、南無虚空藏菩薩
 九、南無持世菩薩
 十、南無寶髻菩薩
 十一、南無蓮華藏菩薩
 十二、南無摩訶羅菩薩
 十三、南無摩訶伽藍菩薩
 十四、南無摩訶庵闍梨菩薩
 十五、南無摩訶師子菩薩
 十六、南無摩訶師子吼菩薩
 十七、南無摩訶師子王菩薩
 十八、南無摩訶師子吼王菩薩
 十九、南無摩訶師子王吼菩薩
 二十、南無摩訶師子王吼王菩薩

56 吉村虎太郎書状

紙本墨書 一六・〇×一〇〇・五
江戸時代、文久三年（一八六三）

吉村虎太郎 一巻（三の丸尚蔵館）

吉村虎太郎（一八三七〜六三）は、土佐国高岡郡芳生野村に生まれる。父は庄屋を務めていた吉村太平。父の庄屋職を継ぎ、各地の庄屋職を歴任した。学問を間崎哲馬に、剣術を武市半平太に学び、次第に尊王攘夷思想に傾倒していった。文久元年（一八六二）に武市の指導する土佐勤皇党に加盟し、翌年二月には長州藩の久坂玄瑞らと交流を持ち、伏見で拳兵する計画を知って脱藩し、伏見に潜伏した。しかし寺田屋事件により計画は頓挫し、虎太郎も捕らわれ土佐へ送還される。同年十二月に赦免されると、文久三年二月に再び上京する。同年八月に大和親征の詔が出ると、天誅組を組織し方広寺に結集、公家の中山忠光を擁立し五条代官所を襲撃した。しかし八月十八日の政変で形勢が一転して不利となり、周辺諸藩の軍と戦うも敗退を続けた。大和国鷲家口付近に潜伏していたが、包圍され戦死した。

本書状は再上京後の文久三年五月二十五日付である。実父である太平が同月八日に死去したことが、親族より伝えられており、本書はその返書と考えられる。さらに同二十一日には頼みになっていた公家の姉小路公知が暗殺されるなど、緊迫した京都の情勢も伝えられる。親しい人の相次ぐ死去に悲嘆にくれる虎太郎であったが、「微忠」を尽くすことを決心し、帰国を望む母の願いを首みず、国事に奔走した。そのためか、書簡の宛先もそれまで父母宛だったものが、弟妹宛となっている。昭和三年（一九二八）田中光顕献上。

（釈文は119頁参照）

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

書の美、文字の巧

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 74

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

宮内庁書陵部

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年九月十七日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan
The Archives and Mausolea Department
Imperial Household Agency